

経営比較分析表（平成29年度決算）

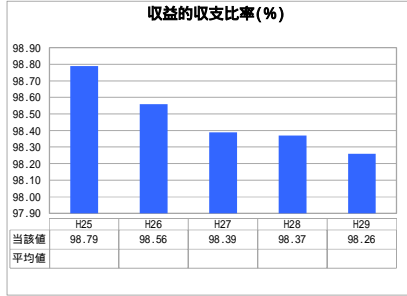
高知県 四万十町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.67	99.46	2,100

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,528	642.30	27.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
985	0.44	2,238.64

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



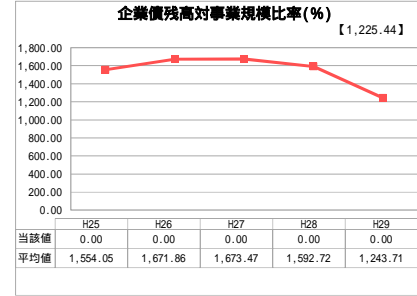
「単年度の収支」



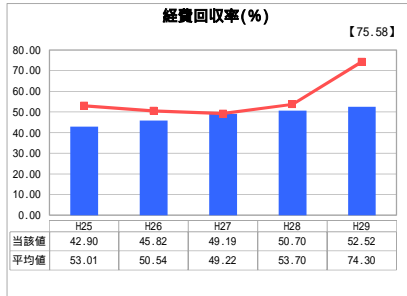
「累積欠損」



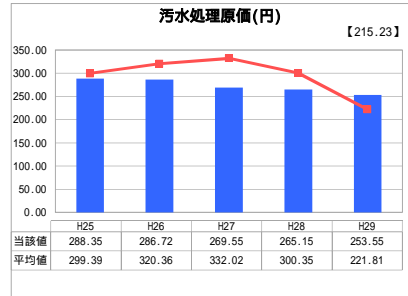
「支払能力」



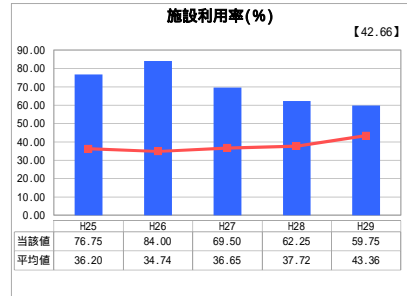
「債務残高」



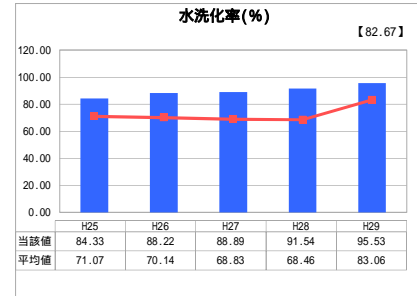
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

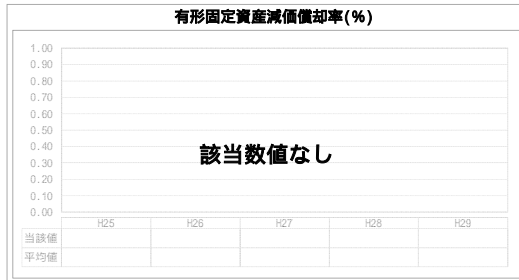


「施設の効率性」

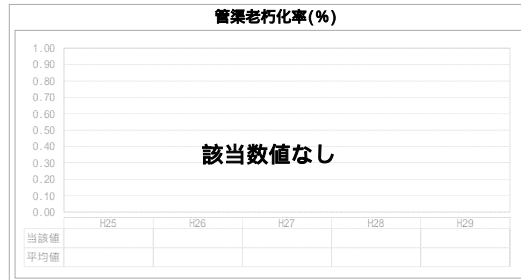


「使用料対象の捕捉」

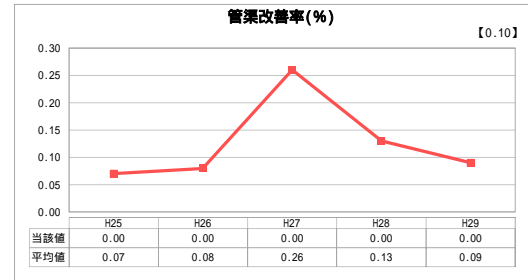
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

大正クリーンセンターは処理場および管路は整備済みであり、現在の主な支出は建設時の起債の償還と機器の修繕費が主となっている。経費回収率は徐々に上昇しているが他団体に比べ依然低い水準となっており、収支不足は他会計からの繰入金に依存している。

今後も老朽化した機器の更新が必要であるが、使用料収入の増加は見込まれないことから、国庫補助（ストックマネジメント事業）等を活用しての調査分析を実施する予定であるが調査結果によっては、新たな修繕や更新等が発生する可能性がある。また修繕費用負担の平準化や修繕等費用を見込んだ料金改定が必要となる。

施設利用率、水洗化率の効率性は平均値を上回っている状況である。

2. 老朽化の状況について

大正クリーンセンターは平成14年4月より稼働しているが、近年設備の不具合が徐々に発生している。水処理の要となる機器類については、早急に対応する必要があるため、町単独費で交換・修繕を行っている。しかしながら、経年劣化や老朽化が進行しており突発的に機器が作動しなくなる恐れがある。

そのため、できるだけ早くストックマネジメント手法を用いて最適化構想を策定し、計画的に機器の更新・修繕・交換を行っていく予定である。

全体総括

整備が完了していることから、今後も維持管理を適正に行っていく。

また、老朽化した機器等の更新には、国庫補助事業を活用し、町の財政負担を軽減しつつ、より確実な水処理を目指し、町民の生活環境の向上に努めていく。

法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。